


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	山口市立大内小学校 第6学年 全3クラス 99名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 著名なスポーツ選手による指導を受けることによって、陸上運動系に関する技能の向上を図るとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。(児童) 小学校体育科における陸上運動系の効果的な指導法について研修し、体育科授業における指導力の向上を図る。(教員)
5 取組内容	<p>事前取り組み 成迫選手に関する情報を事前にプリントとして配布し、期待感と意欲を高めた。</p> <p>当日の取り組み 成迫選手の紹介、その後成迫選手による講演を頂いた。講演の内容はご本人がここに至るまでに大切にしてきたことや学んだことなどを中心にお話頂いた。</p> 

講演を頂いた後は、グラウンドにてハードル教室が行われた。



事後の取り組み

今回の事業内で県教委からお貸し頂いた開閉式ハードルを用いて、その後の体育科授業を行った。児童の恐怖感の緩和に一役買っていた。



6 主な成果

事前の取り組みによって児童は、オリンピックから直接指導を受けることができる期待感で胸を膨らませていた。当日の講演によって、児童はますます夢を持って取り組むことへの大切さを感じることができていた。また実技指導によって、陸上記録会を控えている6年生児童は、成迫選手のフォームやアドバイスなどを参考に自己の技能の向上に努めていた。事後の指導によって、多くの子ども達が恐怖感を持たずに学習に楽しく取り組むことができていた。さらに、成迫選手から教わったことをもとにして陸上記録会に意欲的に取り組むことができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

単発の事業ではなく、その後の体育科の授業も見据えて事後指導まで行ったことで、授業当日に得た知識が、実践をともなった理解へと深まった。

8 主な課題等

6年生に対する動機付けが「陸上記録会に向けて」のみでなく、本質的なハードル走の楽しさを味わわせることが前面に押し出せていけばよかったと感じている。

9 来年度以降の実施予定

県教委からお貸し頂いた開閉式のハードルを用いて、今後もハードルの楽しさを十分に味わわせる体育科の授業のあり方を追求していきたい。